2026 年度臨床研究の承認状況

承認番号		課題名	研究責任者	共同研究者	研究の概要
ER2026-001	承認	認定看護師として安全な医療の提供を目指して	島田 聖也	なし	診療録 (カルテ)や院内記録 (インシデント報告)を用いた後ろ向き研究を行い、認定看護師による特定行為 (気管カニューレ交換)の実践状況を調査し、安全な医療の提供および現場への影響について明らかにする
ER2026-002	承認	大腸憩室出血に対する内視鏡後の非絶食管理の安全性を検証する多施設共同ランダム化比較試験（非劣性試験）	若槻 俊之	原田 潤 沼本 紘輝 何本 佑太 佐藤 知子	最終血便から 24 時間以内で受診した急性血便を呈し、受診後 48 時間以内に大腸内視鏡検査が実施され、確定大腸憩室出血もしくは推定大腸内視鏡出血と診断された症例を試験治療群（早期食事再開群）、標準治療群（対照群）に無作為に割り付け、年齢や性別、既往歴、薬剤歴など患者の基本情報、症状、バイタルサイン（血圧や脈拍）、血液結果説明、内視鏡所見、治療内容、再出血などのイベントの発生の有無をカルテから取得し、大腸憩室出血の患者において、大腸内視鏡検査後に早期に食事を再開する管理（遅くとも 24 時間以内）が、従来の 48 時間以降の食事再開と比較して、30 日以内の再出血率において劣らないこと（非劣性）を科学的に検証する
ER2026-003	承認	LGBTQ+に配慮した医療体制に関する現状調査	植木 綾	倉田 弓美子 奥田 渓子 西本 菜美 西岡 愛莉 明関 拓也 田中 裕子	当法人では、法人内プロジェクトとして LGBTQ+当事者に配慮した環境整備や啓発運動に取り組んできた。2025 年は当事者団体主催イベント「岡山レインボフェスタ 2025」にブース展示で参加し、取り組みについてアンケートと健康チェックを行った。本研究では、当法人、病院が地域連携を行っている医療機関における対応状況と課題を明らかにし、今後の地域医療の改善につなげることを目的とする。
ER2026-004	承認	医療従事者の経験年数による吸入手技指導の差に関する研究 ー若手専門職と中堅・ベテラン専門職における比較検討ー	草地 海翔	戸村 紗登 鴨田 正則 守屋 崇文	病院で勤務する医療専門スタッフでは、呼吸器疾患患者に対する吸入指導を実施する機会が多く存在する。中でも看護師では、臨床経験により、吸入指導の内容が異なることが報告されている。吸入指導は、呼吸器疾患患者の治療効果に大きく影響するため、その質を高めるためには指導内容の傾向を把握することが重要である。本研究は、若手群（5 年め未満）と中堅・ベテラン群（5 年以上）における吸入指導内容の違いを明らかにし、指導の標準化と質向上を図ることを目的とする

ER2026-005	承認	上部消化管内視鏡検査における、胃癌・腺腫発見のためのインジゴカルミン撒布の有用性についての多機関共同前向き観察研究 （ER2025-016 で承認済み研究計画書、説明文書、同意書に変更点があり再提出）	若槻　俊之	当院を含む、研究に賛同する 36 病院	上部消化管内視鏡検査において、胃全体にインジゴカルミンを散布することが、胃癌・腺腫発見に有用か多機関共同の前向き研究により検討する
ER2026-006	承認	摂食不良や絶食治療は何日間で顕在化した胆泥貯留を起こすのかー分析的横断研究ー	小川　陽生	一瀬　直日	接触不良や絶食治療は何日で顕在化した胆泥貯留を起こすのかを調査する。 研究対象者の診療録から性別、年齢、日常生活自立度、胆泥貯留の画像確定診断までの絶食日数、胆泥診断前のセフトリアキソン点滴投与の有無、飲水の有無、発症前までの絶食オーダーの有無、経口内服薬使用の有無を記録、解析を行う。
ER2026-007	承認	日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）構築に関する研究	古谷　友希	日本整形外科学会会員が所属する施設	本研究の目的は、運動器疾患の手術に関する大規模データベースの構築ならびに登録した医療情報を分析することにより、国民に対する良質な医療の提供、適正な医療レベルの維持、また、医療経済の最適化に寄与することである。本研究で構築される大規模データベースの名称は、日本整形外科学会症例レジストリー（Japanese Orthopaedic Association National Registry：JOANR）である。
ER2026-008	承認	当院における急性膿胸治療の実態調査 ー過去起点コホート研究ー	田中　柚衣	一瀬　直日	膿胸は胸腔内に貯留した液が肉眼的に膿性あるいは膿様性になったものを言い、治療は抗生物質投与だけでは改善しないため、洗浄ドレナージ療法を併用し、難治例では掻爬術（剥皮術）を行うこともある。当院には高齢者や寝たきりの患者様に膿胸が起きて紹介入院となる方が多く、治療期間が長期化することも多くみられる。年齢や性別、基礎疾患、膿胸患者のリスク予測スコアである RAPID スコア（R:腎臓[BUN]、A：年齢、P：膿性・非膿性、I：感染スコア、D：食事・栄養[アルブミン]）などの患者特性によって治療期間がどのようになっているか、実態の調査分析を行う。
ER2026-009	承認	当院の 1 型および 2 型糖尿病通院患者における診療の質評価：サマリーシート普及への介入効果検証	木下　千紘	一瀬　直日	日本糖尿病学会では臨床医向けに合併症の評価項目など糖尿病の管理指標を提唱している。当院では、糖尿病外来患者について診療の質 11 項目の達成度合いを 2022 年から後方視的に年 1 回測定をしている。2023 年に電子カルテ内に貼り付ける形式のスタンプを作成した。2024 年はデータの自動取得機能を盛り込んだ糖尿病管理サマリーシートを作成した。2025 年はサマリーシートを更に普及させ診療の質評価項目の達成割合を高めるためのビデオを作成し、そのリンク QR コードを医師看護師らに配布した。今回、この 2025 年のアクションリサーチの効果検証を分析を行う。

ER2026-010	承認	褥瘡専従看護師の活動に対する医療スタッフの認識と期待ー病棟看護師・医師へのアンケート調査ー	相賀　和美	なし	病棟看護師および医師を対象に、褥瘡専従看護師の活動に対する認識、活用状況、有用性おうび改善点を明らかにし、今後の活動改善に役立てる。
ER2026-011	承認	当院における骨粗鬆症評価・二次骨折予防体制の構築と地域連携の取り組みー2020 年～2025 年のOLS（骨粗鬆症リエゾンサービス Osteoporsisi Liaison Service）活動	末永　武史	近藤　哲 福山　琴子	当院整形外科病棟では、大腿骨近位部骨折患者様、及び脊椎圧迫骨折患者様を対象に、骨粗鬆症評価・二次骨折予防体制の構築に取り組んでいる。本研究では、対象患者様のカルテ記録を用いて骨粗鬆症評価の実施状況、治療介入状況を調査し、取り組みの現状について報告するとともに、課題について後方視的に検討する。
ER2026-012	承認	当院の 1 型および 2 型糖尿病通院患者における血糖コントロールの年次推移	米田　修康	一瀬　直日	糖尿病は高血圧・脂質異常症・動脈硬化症と並ぶ生活習慣病の一つであり、日本人の三大死因である脳血管疾患・心疾患のリスク因子である。当院の内科・総合診療科には 1 型および 2 型糖尿病患者が約2000人定期通院している。糖尿病の治療を行っている病院通院患者の全体像の年次変化を把握することは、病院で提供する治療方法やアプローチを改善させていくことに役立つと考えられる。
ER2026-013	承認	直腸神経内分泌腫瘍に対する Underwater ESMRL の有用性および安全性の検証を目的とした多施設共同前向きランダム化比較試験	若槻　俊之	当院を含む、本研究に賛同する全国 15 施設	直腸神経内分泌腫瘍は、小型の病変であれば転移リスクが非常に低く、内視鏡で腫瘍を切除することが一般的である。神経内分泌腫瘍は上皮下腫瘍といって、通常の大腸ポリープより一段深いところから発生する腫瘍であり、そのため、大腸ポリープの切除法をそのまま応用すると、腫瘍深部側の取り残しが起こりやすくなってしまう、さらに一手間加えた治療が行われる。現在一般的に行われている内視鏡治療は、腫瘍の下に液体を注射し（局注）、ゴムバンドで腫瘍の下を縛り、ゴムバンドの下で切除を行う ESMRL（Endoscopic Submucosal Resection with Ligation device）だが、こういった切除法であっても、腫瘍下端ぎりぎりでの切除となることが時に起こる。最近、局注をせずに ESMRL を行うことで、腫瘍下端に余裕をもって腫瘍切除ができることが報告された。しかし、その一方で深く取り過ぎてしまい、筋層の一部が傷つく確率もあがってしまうことも報告されている。近年、大腸ポリープの内視鏡治療を浸水下で行うことが増えている。浸水下にすることで浮力によりポリープが浮かび上がり、一方で筋層はそのままの形を保つため、局注をせずとも安全な大腸ポリープ切除が可能となっている。今回の研究は、浸水下に ESMRL を行うことで、局注を省略しつつ、筋層を傷つけるリスクも減らすことができるのではないかという考えのもと計画を行った。

ER2026-014	承認	医療にメイクセラピーを 心身を包括的に支える新たなアプローチ	菅野 由起	なし	近年、医療現場では身体的治療に加え、患者様の心理的支援や QOL（生活の質）の向上が重要視されている。当院では、外見の変化を通してセルフイメージや自己肯定感を高め、心理面へ良い影響をもたらすことが期待される、メイクセラピーに着目し、2023 年度より患者の心身を包括的に支えることを目的とした活動を開始している。今年度は、患者様が新たな自己表現や社会参加への一歩を踏み出す機会となること、さらにその前向きな変化が家族にも良い影響を及ぼすことを目的として、メイクアップファッションショーを開催した。本発表では、これまでの活動の経過と取り組みの内容を報告するとともに、メイクセラピーが患者様および家族にもらたらした心理的変化やその意義について報告する。
ER2026-015	承認	回復期リハビリテーション病棟患者における MNA－SF 分類別の歩行能力の比較	池田 陸祉	畑 勇輝 草地 海翔	2024 年度の診療報酬改定では、入退院時の栄養状態評価に Global Leadership Initiative on Malnutrition（GLIM）基準を用いることが必須要件となった。GLIM 基準のスクリーニングには Mini Nutritional Assessment Short-Form（MNA-SF）が用いられる。MNA-SF を用いた報告として、回復期病棟入院時に低栄養を有する患者は Functional Independence Measure（FIM）の改善度が低く、在院日数が長く、歩行自立度も低いことが報告されている。しかし、これらは特定の疾患を対象としたものや、退院時 FIM の総得点を評価したものであり、退院先の決定に関わる歩行 FIM のみに着目した報告は少ない。そこで本研究では、当院の回復期リハビリテーション病棟(回リハ病棟)入院患者を対象に、入院時の MNA-SF 分類から低栄養群、リスク群に分け、退院時の歩行 FIM を比較することを目的とした。
ER2026-016	承認	AI 搭載下部内視鏡の有効性に関する単施設ケース・クロスオーバー研究	若槻 俊之	佐藤知子 何本佑太 原田潤 呉立洋	飛躍的なテクノロジーの進化に伴い、高パフォーマンスな内視鏡診断を提供できる環境を作ることを目的として、人工知能（AI）を用いたコンピュータ診断支援システムの研究開発がにわかに注目を浴びており、本邦でも 2019 年 3 月から内視鏡 AI の一部製品の市販が始まっている。それを受け当院でも、下部内視鏡検査および治療患者を対象とし、AI あり／なしで検査を施行し、ポリープ（腺腫）の発見率を比較検討する。
ER2026-017	承認	回復期リハビリテーション病棟での患者の満足度に影響する項目の検討	平松 弥樹	なし	回復期リハビリテーション病棟入院患者様を対象に満足度調査を実施し、患者満足度に関連する項目を明らかにすることを目的とする。また、患者様が重視する医療サービスを把握し、今後の医療サービスの向上および患者中心の医療の実現に役立てる
ER2026-018	承認	外来通院患者の交通手段についてのアンケート調査	横田 啓	未定	日本政府は「医療部門における温室効果ガスの排出量と実質ゼロにすることを目指す」との方針を示している。医療機関の温室効果ガス排出を計算する方法として、Climate Impact Checkup Tool が国際的に広く使われており、研究責任者が翻訳し使用可能となった。当院の外来患者様に通院時の交通手段についてアンケートを行い収集したデータを入力し、個人が特定できない形で住所地より交通による温室効果ガス排出量のデータを収集し解析する

ER2026-019	承認	岡山県内における溶血性連鎖球菌の検出状況	栗本　真起子	当院他研究に賛同している12機関	2016年以降世界的に劇症型溶血性連鎖球菌感染症が増加しているとの報告があります。 また、日本国内においても劇症型溶血性連鎖球菌感染症が増加しているとの報告があります。そのため、岡山県内における溶血性連鎖球菌感染症を確認する必要があります。より正確なデータを得るためには培養検査による検出状況の把握が必要です。本研究に賛同を得られた医療機関から培養検査のデータを提出していただき岡山県内における溶血性連鎖球菌感染症の検出状況を確認します。
ER2026-020	承認	ラズベリー様腺窩上皮型胃腫瘍に対するCold polypectomyの有効性および安全性の検討に関する多施設共同介入試験	若槻　俊之	佐藤　知子 何本　佑太 沼本　紘輝 呉　立洋	ラズベリー様腺窩上皮型胃腫瘍に対するCold polypectomyの有効性・安全性を評価する。また、臨床病理学的特徴を明らかにする
ER2026-021	承認	低栄養および嚥下障害を有する高齢患者におけるPICCによるTPNの傾向摂取移行達成率および安全性に関する観察研究ー後方視的コホート研究ー	上春　美奈	一瀬　直日	低栄養および嚥下障害を伴う高齢の患者様において、口からの食事が十分に摂れず、また経鼻チューブや胃瘻による栄養管理を行わない方針となった場合、点滴のみによる栄養不足が長期化することが課題となっている。 当院では、腕の血管から安全に挿入できるカテーテル（PICC）を用いて十分な栄養と補給する治療（TPN）を行っている。本研究は、この点滴管理が、再び口から食事を食べられるようになるまでの回復を助けているかどうか、また安全に行われているかどうかをカルテ情報から過去を振り返って検証し、今後の高齢者医療の質の向上に役立てることを目的とする。
ER2026-022	承認	岡山医療生協法人内褥瘡ケア認定看護師講習修了生に関する活動調査	中下　勇治	相賀　和美	当法人内の褥瘡ケア認定看護師講習の修了者へアンケートを行い、活動状況等を把握することで、法人内褥瘡ケア認定看護師講習の有用性や今後の課題を明らかにする。
ER2026-023	承認	当院の1型および2型糖尿病通院患者における年代別血糖コントロールの推移 （ER2026-012で承認済）	一瀬　直日	米田　修康	糖尿病は高血圧・脂質異常症・動脈硬化症と並ぶ生活習慣病の一つであり、日本人の三大死因である脳血管疾患・心疾患のリスク因子である。当院の内科・総合診療科には1型および2型糖尿病患者が約 2000 人定期通院している。糖尿病の治療を行っている病院通院患者の全体像の年次変化を把握することは、病院で提供する治療方法やアプローチを改善させていくことに役立つと考えられる。

2026年11月　連絡先：臨床研究部（医師支援室）
086-272-2121（代）